

センターだより

特号別号
平成 26(2014)年 5 月発行
吹田市立教育センター
大阪府吹田市出口町 2-1
TEL 06-6388-1455
FAX 06-6337-5412
メール s-educ@suita.ed.jp

道を辿る前に…。
What's
「幼小中一貫教育」?

幼小中一貫教育って・・・何？

中学校ブロックの子どもの実態をもとに、教育目標やめざす子ども像、カリキュラムを同一中学校ブロックの教職員が共に作り上げる取組のことです。本市では、「学び」や「育ち」の適時性と連続性を踏まえ、就学前の子どもたちを含めた学校・園相互の緊密な連携を構築し、確かな学力・豊かな人間性・健康や体力をバランスよく備えた「総合的人間力」の育成を図っています。

幼小中一貫教育でめざすもの（メリット）

学力向上
豊かな人間性
社会性の育成

- 同一中学校ブロック教職員の相互交流を深めることによる、**教職員の資質と指導力の向上。**
- 教職員が子ども一人ひとりへの理解を深めることによる、**個に応じた指導や支援の充実。**

系統的・継続的な学習指導による、子どもの**学習意欲の向上、学習習慣の確立、確かな学力の育成。**

- 中学校ブロックを単位とした地域社会・保護者相互の連携を深めることによる、**学校・家庭・地域社会が一体となった教育環境づくり。**
- 地域に根ざした継続的な教育活動を通じ、**自分の住む地域に自信と誇りを持ち、地域に貢献する人材の育成。**
- 系統的・継続的な生徒指導による、子どもの**個性の伸長、社会的な資質や能力・態度の育成。**
- 中学校ブロックにおける子ども同士の多様な交流活動や地域社会との交流による、**豊かな人間性や社会性の育成。**

Road to the 幼小中一貫教育

今、全国で小中一貫教育が進められています。もう一度その道のりを辿ることで、吹田市の幼小中一貫教育について考えます。自分の中学校ブロックはこの辺りかな、と考えながら読んでください。もちろん、幼小中一貫教育の道はひとつではありません。行きつ戻りつしながら、順番に、あるいはいくつかをスキップして…と、それぞれの道があると思います。ここでは、典型的な道筋をたどりながら、吹田市内の取組や全国での取組を紹介します。題して、「Road to The 幼小中一貫教育」!!

START

1. 教職員の交流から始めましょう

同じブロックの教職員の「顔」が分かりますか??
→同じ目標に向かう「仲間」です。相互理解が大切です。

2. 子どもの交流イベントの設定

- ブロック内で教職員間の交流ができてきたら、次は、イベントを企画します。
- 園児・児童の中学校の体育大会への参加
 - 小学校 6 年生の中学校クラブ体験
多くの学校で、生徒会が中心となって、企画から当日の司会・進行まで行っています。ここに、児童会と連携を加えてみると、より一層学びの連続性が生まれ、小中学校間のギャップが軽減されるのではないのでしょうか?例年通りのものに児童・生徒が交流できるようなポイントを付け加えて、児童・生徒が中心となって企画・実行ができる素地を教職員から話し合ってみましょう。
 - 園児の小学校音楽会への招待
幼小中一貫の観点で園児を小学校の行事に招待しているブロックもあります。
 - 地域行事における子どもたちの交流

【取組事例】第一中学校ブロック「一中ガイド」

生徒会の案内による授業体験の後、クラブ体験を行っています。児童会が事前に参加クラブ希望や中学校に関する質問を集約するなどの児童・生徒会の交流も行っています。これで、環境が大きく変わって、もう安心して中学校へ通っています。



クラブ体験

・小中連携と小中一貫教育の違いについて

中央教育審議会初等中等教育分科会「小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理」(H24.7.13)において次のようにまとめられています。
小中連携…小・中学校が互いに情報交換、交流することを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育
小中一貫教育…小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育

小一連携が成功の鍵!

「小中連携」「小中一貫」と聞くと縦のつながり、段差ばかりが気になりますが、小中一貫教育の成否にかかわる大事な鍵を握っているのが「小一連携」であるとも言えるのです。小一小間の合同会議等で共有し、ある程度そろえておきたいものの例として ①めざす子ども像 ②授業規律 ③学習上の様々な取り決め等があります。また、お互いの学校の通知表を研究し、自校の評価規準と比較することも大事なことで、一貫カリキュラムを作成するとき役に立ちます。遠足や宿泊行事、発表会や鑑賞会の合同開催、総合的な学習の時間や、生活科の学習を合同で行っている校区もあります。
【取組事例】岸一小学校・岸二小学校 合同の林間学習



平成 24 年度実施時の様子

3. 行事運営・児童生徒協力

学校・園間で行事の運営や地域社会での活動を協働して実施するなど、連携をより強化していく必要があります。具体的な取組の事例としては、園児の小学校統一見学日の取組や小・中学校間の相互乗入授業の実施、児童会・生徒会の協働、オープンスクールや地域の清掃活動などがあげられます。こうした活動を通して、教職員間では情報の交換や問題意識の共有など学校運営の課題意識を共有することができます。また、子どもたちは協働作業の中で、中学校の先輩・先生と関わることで中学校生活への不安がなくなり、「中1ギャップ」の解消をはかることができます。

4. 中学校ブロック合同会議

計画的に一貫教育を推進するためには、学校ごとに担当者を分掌に位置づけることや、中学校ブロックの担当者が定期的に集まって会議を行うことが必要です。

＜例＞

- 幼小中一貫担当者会・・・幼小中連携担当者が定期的に行う会議。年間計画やテーマを策定し、情報交換を行う。
- 各部会（生徒指導、学力向上、特別支援など）・・・特定のテーマや課題をもとに研究を進める。

【取組事例】

- 千里みらい夢学園
6年生の中学校への金曜日登校（相互乗入授業）
- 南千里中学校ブロック
児童会・生徒会の合同の取組（挨拶運動、夏祭りの出店）



学校・園 運営改善の道

裏面に続く

緊密な連携・一貫性のある指導の道

子どもの交流による社会性育成の道

6. 授業研究

～授業を見る視点を共有し、よりよい指導方法を実践していこう～

発展的に再び「6. 授業研究へ」

GOAL

たぶん、ひとまず…

まずは、授業の協議を！

次に、研究テーマを合わせよう！

教職員の指導観共有の道

お互いの授業・保育を観ることができるようになったら、中学校ブロックで研究授業を行いましょう。同じ授業を観て、専門の教科にかかわらず、教師の指導・支援について、「**子どもの姿を観る視点**」で協議を行います。子どもにとって教師の手立てや支援が有効であったかどうか、授業のめあてと子どもの活動が一致していたかどうかなど、教科や校種にかかわらず**話し合うことができる観点**を決めておきましょう。

例えば…

- 〇〇という活動は子どもの興味・関心をひく活動であったか
 - グループ活動での〇〇という支援は子どもの話し合いに有効であったか
- 次の段階では、各校園の研究テーマをそろえて研究授業を行うようにしましょう。吹田市では、各中学校ブロックで**めざす子ども像**を共有しています。そこを出発点に研究テーマを設定し、研究授業を行うようにすると、テーマについて共有事項が中学校ブロックで積み上がっていきます。

一学期に行った小学校の研究授業で共有したことが、二学期の中学校の研究授業では前提となって新たな提案があり、それを繰り返すことで、より充実した研究授業になっていきます。こうした協議を通して、小・中学校で「めざす子ども」を育てるための「よい授業像」の共有をしていくのです。



幼小中一貫教育カリキュラムとは？

幼稚園から小・中学校9年間の子どもの学びの連続性を図るために編成されるのが幼小中一貫教育カリキュラムです。本市ではさらに、幼稚園など就学前のカリキュラムとの連続性をめざした研究を進めています。教科・領域ごとの系統性と他教科との関連を、子どもの心身の発達段階や特質に応じて、計画的な指導を実践することがねらいです。校種を超えた教職員が、「学力観」「指導観」「子ども理解」を共有することで、授業改善の促進と学力向上につながります。また、生徒指導上の課題である「中一ギャップ」「いじめ」「不登校」といった課題の解消にもつながります。

8. 幼小中一貫教育カリキュラム作成

さあ、カリキュラムづくりのスタートです！

めざすは、各ブロックで「幼稚園及び小中学校9年間でつきたい力」が育まれるカリキュラム作成です。まず、校園内で一人ひとりの担当する教科・領域を決めます。(中学校は専門教科) 1つの教科に必ず複数担当者をおき、教科・領域のメンバーでカリキュラムづくりを始めます。

【例】 国語 「書く」は小中ともに得意であるが、「読む」は中1から苦手意識がある。
理科 実験は進んでするが考察することに課題がある。

- ① 各教科の子ども観を共有した後、その実態に合わせて教科の目標(めあて)を決めます。
- ② 領域別や観点別に各学年の学習内容を洗い出し整理します。
- ③ 整理したものを9年間の一覧にします。評価規準や評価基準も入れてみましょう。
- ④ 一覧表を教科メンバーで、学びの系統性・連続性を再検討します。
- ⑤ 言語活動欄を設けたり、学習形態をいれるなどの工夫も取り入れましょう。

カリキュラムを考える中で、きっと様々な気づきがあるでしょう。

- ・幼稚園からのつながりを、どのように取り入れるか。
- ・体育や美術で言語活動を充実させるためには、どのような活動を取り入れるか。
- ・生活科と理科や社会、特活等の横の繋がりも見えてきた…等々、そんなときは幾度となく作り変えましょう。

研究協議を充実させるために

研究協議を多くの先生方に参加してもらう工夫としては、多くの学校ですで行われているグループ討議を取り入れるとよいでしょう。特に誰もが参加した実感を得ることができる付箋を活用した参加型・ワークショップ型協議だと、多くの意見を協議の中に位置づけることができます。中学校ブロックで行う協議の場合、グループは幼小中混合にするなど、互いに理解が進むよう工夫するとよいでしょう。

また、グループ協議後の全体交流で、グループで共有したことを全体のものにする時間をしっかり確保することが大切です。

【教育センターの行う研究授業研修では】

この全体協議をスムーズに行うため、グループで共有したことをキーオピニオン(大切な意見)として短冊などにして掲示し、全体交流で生かすようにしています。



7. 教科カリキュラム研究

～中学校ブロックでの授業研究をふまえ、発達段階に応じた指導を通してめざす子どもを育てよう～

中学校ブロックの研究授業が積み重なり、研究テーマを幼小中で共有するようになると、子どもを育てるための指導観の共有も進んできます。すると研究授業では、「中学校の1年生で〇〇する子どもにするには、小学校の高学年で〇〇する力をつけなければならない」というようなことや、「小学校でこうしたことをねらいとしているなら、中学校ではさらに発展して〇〇ということねらって授業をする必要がある」というように、発達段階を意識した意見が多く話し合われるようになります。発達段階(シークエンス)を意識した指導について、特定の観点や教科・領域(スコープ)にまとめていくと、**幼小中一貫した教科カリキュラム**ができてきます。

【取組事例】 古江台中学校ブロック

『言語力の育成』ということを中学校ブロックの共通の研究テーマとした研究を進め、平成24年度の研究報告書では、「言葉の増やし方」「使い方」「思考の深め方」という3つの観点から、幼稚園・小学校の低・中・高学年・中学校という発達段階に応じた指導について一覧表にまとめています。(右図参照)

このように、中学校ブロックで共有したことを、共通の観点、または教科・領域ごとにまとめていくことで、一貫教育カリキュラム作成の第一歩となります。ただし、一回の研究授業と協議ではなかなか見えてきません。中学校ブロックでの研究授業・協議をくり返すことで段々と見えてくるのです。

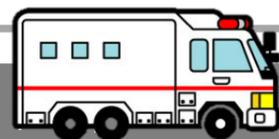
領域	シークエンス (順序・発達)			
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
国語	話し言葉の基本的な表現力	読解力、書く力	読解力、書く力	読解力、書く力
算数	数感、図形感覚	計算力、図形理解	計算力、図形理解	計算力、図形理解
理科	観察力、実験力	観察力、実験力	観察力、実験力	観察力、実験力
社会	生活力、社会性	生活力、社会性	生活力、社会性	生活力、社会性
総合	総合的な学習力	総合的な学習力	総合的な学習力	総合的な学習力



グループ協議を通して、発達を意識した指導について意見を出し合います。



討議の結果を可視化して残し整理すると、協議が積み重なるごとにカリキュラムの原型が見えてきます。



幼稚園から小中学校9年間を見通した教育課程編成の道

幼小中一貫教育カリキュラム実践の道へ